

気になるニュース わたしの視点

20日付の西濃地域面に、「垂井ビジネス拠点12月開館 若者の活躍後押し」という、垂井町が進める町初のビジネス拠点施設についての記事が出ていました。

全国的に少子化が進行していますが、岐阜県でも2023年の出生数は1万1116人となり、1973年のピーク時の3万4343人と比べると3分の1以下になっています。この流れを受けて、保育園や小学校なども統廃合が進んでいます。また、産業界でも、人材不足が喫緊の課題となっています。

そのような流れの中で、最近のまちづくりの考え方には、インフラなどのハード面よりもソフト面を意識する事が求められ、その中でも「人づくり」と呼ばれる、人材育成の視点を重視する動きがあります。産業界でも、中小企業庁が「人材活用ガイドライ

道家経営・法務事務所代表 道家睦明さん



垂井ビジネス拠点12月開館

とつけ・むつあき 1965年、羽島郡笠松町生まれ。慶応大商学部卒。中小企業診断士、行政書士。広告会社勤務を経て、道家経営・法務事務所代表取締役。2020年から愛知県立芸術大非常勤講師も務める。笠松町在住。

「人財」と捉えていくことの重要性が求められています。この記事で気になったのは、旧東保育園という幼い子どもたちにとって、初めての人づくりの場であった施設が、商工会の活動も含め、産

業界の人と人が交流し育っていく場、つまり、ビジネスの人づくりの場となっていくという点です。千葉県鋸南町にある道の駅「保田小学校」「保田小付属幼稚園」はその名前の通り、廃校となった小学校や幼稚園を活用した道の駅で、物産販売だけでなく、地元事業者の店舗や、コワーキングスペースなども含めて、学びをテーマとした施設として注目されています。パウダースノーで世界的に注目されている北

海道のニセコでも、長期的な視点から、人づくりを意識したまちづくりが進んでいます。70もの国や地域から来た人々が住むダイバーシティ環境で、子どもたちの教育だけでなく、ニセコ留学といわれる体験プログラムなど、単に観光だけにとどまらない活動が根底に流れているようです。

単なるハコといわれるような施設ではなく、垂井町の旧東保育園という「人づくり」の環境が整った施設を活用することで、何か新しい発想や組み合わせ、そして、これまでになかったビジネスが生まれる可能性に期待したいところです。（引用記事は29日付電子版最終面に掲載）

垂井ビジネス拠点12月開館

コワーキングスペース整備
若者の活躍後押し

垂井町は19日、同町で「外」の事業者の交流を促進する「垂井ビジネス拠点」の開設を報告した。施設名は「コワーキングスペース2階建て」で、開設は12月1日、町内。金を改修し、使用する。延べ床面積1057平方メートル、総事業費は約1億9600万円。

「町内外の事業者が定員に満たない企業も応募できる。会場で早野町長も挨拶した。」

「施設の利用は有料で、会員登録が必須。サテライトオフィスの法人会員は9月ごろから募集を開始する予定。」

「若者の活躍を後押しする。」

6月20日付14面（西濃地域面）より

旧保育園で「人づくり」期待



電子版利用会
のためはこ
員登録は
ちら